

国登録

建造物

山鹿灯籠民芸館

やまがとうろうみんげいかん

国登録

所在地

山鹿
九日町

地図

P.141 12



細川藩の絵師「狩野洞谷」（かのうとうよう）が描いたとされる「双龍」の絵です。昭和四十八年に解体された「さくら湯」の、御前の湯（殿様の湯）の天井に掲げられていたものです。館内の天井を見上げると、力強いタッチで描かれた「双龍」がひっそりと物静かに鋭い目で見守っています。

大正十四（一九二五）年、安田銀行山鹿支店として建てられました。豊前街道沿いに建つ洋風建築の先駆けであり、当時の山鹿の経済力を示す象徴となりました。

安田銀行撤退後、昭和四十八年まで肥後銀行山鹿支店として営業され、昭和六十二年に山鹿市が譲り受けました。建物は、当時の重厚さを残したまま、山鹿灯籠民芸館となり、現在に至っています。

内部には「山鹿灯籠」が展示されていて、宮造り、座敷造り、鳥籠、矢壺、金灯籠と多彩な灯籠師たちの匠の技を観ることが出来ます。また近年は山鹿の工芸品も展示され、充実した山鹿工芸の唯一の展示場として、観光客や市民に喜ばれ親しまれています。（五嶋）



主屋



江戸蔵



明治蔵

国登録

建造物

吉岡家住宅

よしおかけじゅうたく

国登録

所在地

鹿本町

来民

地図

P.140 13

吉岡家は代々農業を営み、江戸時代の終わりごろから明治にかけては新田の開墾や運送業、養蚕業を手がけました。

主屋は木造、一部二階建てで、明治十八年（一八八五）頃の建築とされています。この建物は居住空間以外に、養蚕にも利用されていました。屋根の上部に越屋根こしやねを設けている点、座敷のほか二部屋の床下に石火鉢を備えている点が特徴です。

主屋のほか江戸蔵（江戸時代の蔵を移築）、明治蔵（明治二十二年・一八八九年建築）、阿弥陀堂（明治十三年・一八八〇年建築）、薬医門、塀（いずれも明治十六年・一八八三年頃建築）の計六件の建築物が登録有形文化財となっています。

（事務局）

国登録

建造物

大森家住宅

おももりけじゅうたく

国登録

所在地

山鹿

地図

P.141 14



主屋



観音堂



蔵

大森家住宅は、代々商家で貸家業、金融業、酒造業などを営んできました。豊前街道から菊池往還へ分岐する旧高札場に近く、古くから山鹿湯町の中心地とされる場所に建っています。

主屋は明治五年（一八七二）建設の木造二階建てで、重厚な建物です。菊池往還に面するこの建物と昭和十五年（一九四〇）頃に建築された北塀は、往時の繁栄をしのばせています。

敷地にはこのほか観音堂（昭和三十二年・一九五七年建築）と蔵（明治時代初期建築）もあり、北塀と同時期の建築と考えられる西塀と合わせ計五件の建築物が「明治期の当地域の景観を今に伝える」と評価され、登録有形文化財となっています。

（事務局）